



AAA の LDAP サーバー

この章では、AAA で使用される LDAP サーバーの設定方法について説明します。

- [LDAP および ASA について \(1 ページ\)](#)
- [AAA の LDAP サーバーのガイドライン \(5 ページ\)](#)
- [AAA の LDAP サーバーの設定 \(6 ページ\)](#)
- [AAA の LDAP サーバーのモニタリング \(14 ページ\)](#)
- [AAA の LDAP サーバーの履歴 \(14 ページ\)](#)

LDAP および ASA について

ASA はほとんどの LDAPv3 ディレクトリサーバーと互換性があり、それには次のものが含まれます。

- Sun Microsystems JAVA System Directory Server (現在は Oracle Directory Server Enterprise Edition の一部、旧名 Sun ONE Directory Server)
- Microsoft Active Directory
- Novell
- OpenLDAP

デフォルトでは、ASA によって Microsoft Active Directory、Sun LDAP、Novell、OpenLDAP、または汎用 LDAPv3 ディレクトリサーバーに接続しているかどうか自動検出されます。ただし、LDAP サーバータイプの自動検出による決定が失敗した場合は、手動で設定できます。

LDAP での認証方法

認証中、ASA は、ユーザーの LDAP サーバーへのクライアントプロキシとして機能し、プレーンテキストまたは Simple Authentication and Security Layer (SASL) プロトコルのいずれかを使って LDAP サーバーに対する認証を行います。デフォルトで、ASA は、通常はユーザー名とパスワードである認証パラメータを LDAP サーバーにプレーンテキストで渡します。

ASA では、次の SASL メカニズムをサポートしています。次に、強度の低い順番に示します。

- Digest-MD5 : ASA は、ユーザ名とパスワードから計算した MD5 値を使用して LDAP サーバーに応答します。
- Kerberos : ASA は、GSSAPI Kerberos メカニズムを使用して、ユーザー名とレムを送信することで LDAP サーバーに応答します。

ASA と LDAP サーバーは、これらの SASL メカニズムの任意の組み合わせをサポートします。複数のメカニズムを設定した場合、ASA ではサーバーに設定されている SASL メカニズムのリストが取得され、認証メカニズムは ASA とサーバーの両方に設定されているメカニズムの中から最も強力なものに設定されます。たとえば、LDAP サーバーと ASA の両方がこれら両方のメカニズムをサポートしている場合、ASA は、強力な方の Kerberos メカニズムを選択します。

ユーザー LDAP 認証が成功すると、LDAP サーバーは認証されたユーザーの属性を返します。VPN 認証の場合、通常これらの属性には、VPN セッションに適用される認可データが含まれます。この場合、LDAP の使用により、認証と許可を 1 ステップで実行できます。



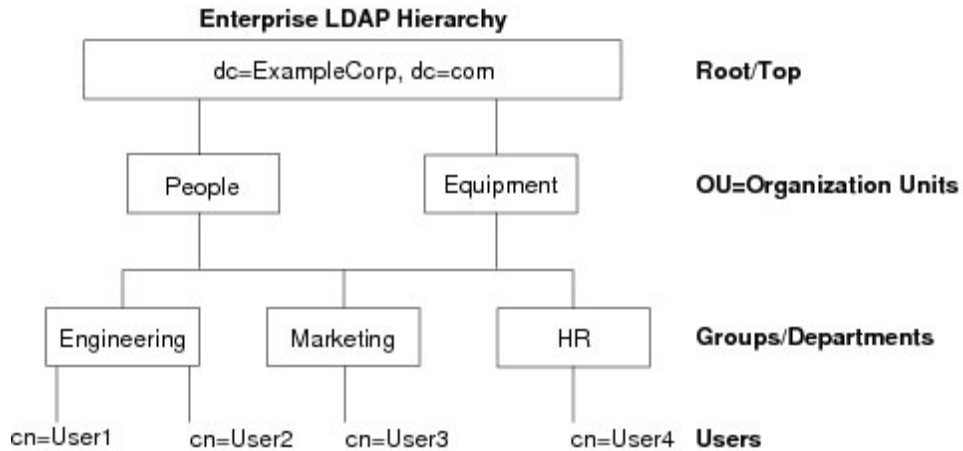
(注) LDAP プロトコルの詳細については、RFC 1777、2251、および 2849 を参照してください。

LDAP 階層

LDAP コンフィギュレーションは、組織の論理階層が反映されたものにする必要があります。たとえば、Example Corporation という企業の従業員 Employee1 を例に考えてみます。Employee1 は Engineering グループに従事しています。この企業の LDAP 階層は 1 つ以上のレベルを持つことができます。たとえば、シングルレベル階層をセットアップします。この中で、Employee1 は Example Corporation のメンバーであると見なされます。あるいは、マルチレベル階層をセットアップします。この中で、Employee1 は Engineering 部門のメンバーであると見なされ、この部門は People という名称の組織ユニットのメンバーであり、この組織ユニットは Example Corporation のメンバーです。マルチレベル階層の例については、次の図を参照してください。

マルチレベル階層の方が詳細ですが、検索結果が速く返されるのはシングルレベル階層の方です。

図 1: マルチレベルの LDAP 階層



LDAP 階層の検索

ASA は、LDAP 階層内での検索を調整できます。ASA に次の 3 種類のフィールドを設定すると、LDAP 階層での検索開始場所とその範囲、および検索する情報のタイプを定義できます。これらのフィールドは、ユーザーの権限が含まれている部分だけを検索するように階層の検索を限定します。

- LDAP Base DN では、サーバーが ASA から認可要求を受信したときに LDAP 階層内のどの場所からユーザー情報の検索を開始するかを定義します。
- Search Scope では、LDAP 階層の検索範囲を定義します。この指定では、LDAP Base DN よりもかなり下位のレベルまで検索します。サーバーによる検索を直下の 1 レベルだけにするか、サブツリー全体を検索するかを選択できます。シングルレベルの検索の方が高速ですが、サブツリー検索の方が広範囲に検索できます。
- Naming Attribute では、LDAP サーバーのエントリを一意に識別する RDN を定義します。一般的な名前属性には、cn（一般名）、sAMAccountName、および userPrincipalName を含めることができます。

次の図に、Example Corporation の LDAP 階層の例を示します。この階層が指定されると、複数の方法で検索を定義できます。次の表に、2 つの検索コンフィギュレーションの例を示します。

最初のコンフィギュレーションの例では、Employee1 が IPSec トンネルを確立するときに LDAP 認可が必要であるため、ASA から LDAP サーバーに検索要求が送信され、この中で Employee1 を Engineering グループの中で検索することが指定されます。この検索は短時間でできます。

2 番目のコンフィギュレーションの例では、ASA から送信される検索要求の中で、Employee1 を Example Corporation 全体の中で検索することが指定されています。この検索には時間がかかります。

表 1: 検索コンフィギュレーションの例

番号	LDAP Base DN	検索範囲	名前属性	結果
1	group= group=cn=Employee1 dc=com	1 レベル	cn=Employee1	検索が高速
2	dc=ExampleCorporation,dc=com	サブツリー	cn=Employee1	検索に時間がかかる

LDAP サーバーへのバインド

ASA は、ログイン DN とログインパスワードを使用して、LDAP サーバーとの信頼（バインド）を築きます。Microsoft Active Directory の読み取り専用操作（認証、許可、グループ検索など）を行うとき、ASA では特権の低いログイン DN でバインドできます。たとえば、Login DN には、AD の「Member Of」の指定が Domain Users の一部であるユーザを指定することができます。VPN のパスワード管理操作では、Login DN にはより高い特権が必要となり、AD の Account Operators グループの一部を指定する必要があります。

次に、Login DN の例を示します。

```
cn=Binduser1,ou=Admins,ou=Users,dc=company_A,dc=com
```

ASA は次の認証方式をサポートしています。

- 暗号化されていないパスワードを使用したポート 389 での簡易 LDAP 認証
- ポート 636 でのセキュアな LDAP (LDAP-S)
- Simple Authentication and Security Layer (SASL) MD5
- SASL Kerberos

ASA は匿名認証をサポートしていません。



(注) LDAP クライアントとしての ASA は、匿名のバインドや要求の送信をサポートしていません。

LDAP 属性マップ

ASA では、次の目的での認証のために LDAP ディレクトリを使用できます。

- VPN リモート アクセス ユーザー
- ファイアウォール ネットワークのアクセス/カットスルー プロキシセッション
- ACL、ブックマーク リスト、DNS または WINS 設定、セッション タイマーなどのポリシーの権限（または許可属性と呼ばれる）の設定

- ローカル グループ ポリシーのキー属性の設定

ASA は、LDAP 属性マップを使用して、ネイティブ LDAP ユーザー属性を ASA 属性に変換します。それらの属性マップを LDAP サーバーにバインドしたり、削除したりすることができます。また、属性マップを表示または消去することもできます。

LDAP 属性マップは複数值属性をサポートしません。たとえば、あるユーザーが複数の AD グループのメンバで、LDAP 属性マップが複数のグループと一致する場合、選択される値は一致するエントリのアルファベット順に基づくものです。

属性マッピング機能を適切に使用するには、LDAP 属性の名前と値およびユーザー定義の属性の名前と値を理解する必要があります。

頻繁にマッピングされる LDAP 属性の名前と、一般にマッピングされるユーザー定義の属性のタイプは次のとおりです。

- IETF-Radius-Class (ASA バージョン 8.2 以降における Group_Policy) : ディレクトリ部門またはユーザー グループ (たとえば、Microsoft Active Directory memberOf) 属性値に基づいてグループ ポリシーを設定します。ASDM バージョン 6.2/ASA バージョン 8.2 以降では、IETF-Radius-Class 属性の代わりに group-policy 属性が使用されます。
- IETF-Radius-Filter-Id : VPN クライアント、IPSec、SSL に対するアクセス コントロール リスト (ACL) に適用されます。
- IETF-Radius-Framed-IP-Address : VPN リモートアクセスクライアント、IPSec、および SSL にスタティック IP アドレスを割り当てます。
- Banner1 : VPN リモートアクセスユーザーのログイン時にテキストバナーを表示します。
- Tunneling-Protocols : アクセスタイプに基づいて、VPN リモートアクセスセッションを許可または拒否します。



(注) 1つの LDAP 属性マップに、1つ以上の属性を含めることができます。特定の LDAP サーバーからは、1つの LDAP 属性のみをマップすることができます。

AAA の LDAP サーバーのガイドライン

この項では、AAA の LDAP サーバーを設定する前に確認する必要があるガイドラインおよび制限事項について説明します。

IPv6

AAA サーバーは、IPv4 または IPv6 アドレスを使用できます。

その他のガイドライン

- Sun ディレクトリ サーバーにアクセスするために ASA に設定されている DN が、サーバーのデフォルトパスワードポリシーにアクセスできる必要があります。DN として、ディレクトリ管理者、またはディレクトリ管理者権限を持つユーザーを使用することを推奨します。または、デフォルトパスワードポリシーに ACL を設定できます。
- Microsoft Active Directory および Sun サーバーでのパスワード管理をイネーブルにするために LDAP over SSL を設定する必要があります。
- ASA は、Novell、OpenLDAP およびその他の LDAPv3 ディレクトリ サーバーによるパスワード管理をサポートしません。
- バージョン 7.1 (x) 以降、ASA はネイティブ LDAP スキーマを使用して認証および認可を行うため、Cisco スキーマは必要なくなりました。
- シングル モードで最大 200 個のサーバー グループ、またはマルチ モードでコンテキストごとに 4 つのサーバー グループを持つことができます。
- 各グループには、シングルモードで最大 16 台、マルチモードで最大 8 台のサーバーを含めることができます。
- ユーザーがログインすると、コンフィギュレーション内で指定されている最初のサーバーから順に、サーバーが応答するまで LDAP サーバーが 1 つずつアクセスされます。グループ内のすべてのサーバーが使用できない場合、ASA は、ローカル データベースがフォールバック方式として設定されていると、ローカルデータベースに接続しようとします（管理認証および認可限定）。フォールバック メソッドとして設定されていない場合、ASA は LDAP サーバーに引き続きアクセスしようとします。

AAA の LDAP サーバーの設定

この項では、AAA に LDAP サーバーを設定する方法について説明します。

手順

-
- ステップ 1 LDAP 属性マップを設定します。[LDAP 属性マップの設定 \(6 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 2 LDAP サーバー グループを追加します。[LDAP サーバー グループの設定 \(8 ページ\)](#) を参照してください。
 - ステップ 3 (オプション) 認証メカニズムとは別の異なる、LDAP サーバーからの許可を設定します。[VPN の LDAP 認証の設定 \(12 ページ\)](#) を参照してください。
-

LDAP 属性マップの設定

LDAP 属性マップを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 空の LDAP 属性マップ テーブルを作成します。

ldap-attribute-map *map-name*

例 :

```
ciscoasa(config)# ldap-attribute-map att_map_1
```

ステップ 2 ユーザー定義の属性名 `department` を、シスコの属性にマッピングします。

map-name *user-attribute-name* *Cisco-attribute-name*

例 :

```
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-name department IETF-Radius-Class
```

ステップ 3 ユーザー定義のマップ値である `department` をユーザー定義の属性値とシスコの属性値にマッピングします。

map-value *user-attribute-name* *Cisco-attribute-name*

例 :

```
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-value department Engineering group1
```

ステップ 4 サーバーと、そのサーバーが属する AAA サーバー グループを識別します。

aaa-server *server_group* [*interface_name*] **host** *server_ip*

例 :

```
ciscoasa(config)# aaa-server ldap_dir_1 host 10.1.1.4
```

ステップ 5 属性マップを LDAP サーバーにバインドします。

ldap-attribute-map *map-name*

例 :

```
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-attribute-map att_map_1
```

例

次の例は、`accessType` という名前の LDAP 属性に基づいて管理セッションを ASA に制限する方法を示しています。`accessType` 属性には、以下の値のいずれかが含まれる可能性があります。

- [VPN]
- admin
- helpdesk

次の例では、各値が、ASA でサポートされる有効な IETF-Radius-Service-Type 属性のいずれかにマッピングされる方法を示します。有効なタイプには、remote-access (Service-Type 5) 発信、admin (Service-Type 6) 管理、および nas-prompt (Service-Type 7) NAS プロンプトがあります。

```
ciscoasa(config)# ldap attribute-map MGMT
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-name accessType IETF-Radius-Service-Type
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-value accessType VPN 5
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-value accessType admin 6
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-value accessType helpdesk 7

ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# aaa-server LDAP protocol ldap
ciscoasa(config-aaa-server-group)# aaa-server LDAP (inside) host 10.1.254.91
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-base-dn CN=Users,DC=cisco,DC=local
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-scope subtree
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-login-password test
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-login-dn CN=Administrator,CN=Users,DC=cisco,DC=local
ciscoasa(config-aaa-server-host)# server-type auto-detect
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-attribute-map MGMT
```

次の例では、シスコの LDAP 属性名の全リストを表示します。

```
ciscoasa(config)# ldap attribute-map att_map_1
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)# map-name att_map_1?

ldap mode commands/options:
cisco-attribute-names:
  Access-Hours
  Allow-Network-Extension-Mode
  Auth-Service-Type
  Authenticated-User-Idle-Timeout
  Authorization-Required
  Authorization-Type
  :
  :
  X509-Cert-Data
ciscoasa(config-ldap-attribute-map)#
```

LDAP サーバー グループの設定

LDAP サーバー グループを作成して設定し、LDAP サーバーをそのグループに追加するには、次の手順を実行します。

始める前に

LDAP サーバーを LDAP サーバー グループに追加する前に、属性マップを追加する必要があります。

手順

ステップ 1 サーバー グループ名とプロトコルを指定します。

aaa-server server_tag protocol ldap

例 :

```
ciscoasa(config)# aaa-server servergroup1 protocol ldap
ciscoasa(config-aaa-server-group)#
```

aaa-server protocol コマンドを入力する場合は、コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 2 次のサーバーを試す前にグループ内の LDAP サーバーでの AAA トランザクションの失敗の最大数を指定します。

max-failed-attempts number

例 :

```
ciscoasa(config-aaa-server-group)# max-failed-attempts 2
```

number 引数の範囲は 1 ~ 5 です。デフォルトは 3 です。

ローカルデータベースを使用してフォールバック方式（管理アクセス専用）を設定すると、グループ内のすべてのサーバーが応答しないか応答が無効である場合にグループは応答なしと見なされ、フォールバック方式が試行されます。サーバー グループで、追加の AAA 要求によるアクセスがない、非応答と見なされる時間が 10 分間（デフォルト）続くと、ただちにフォールバック方式が使用されます。非応答時間をデフォルトから変更するには、次のステップの **reactivation-mode** コマンドを参照してください。

フォールバック方式として設定されていない場合、ASA は引き続きグループ内のサーバーにアクセスしようとします。

ステップ 3 グループ内で障害の発生したサーバーを再度アクティブ化する方法（再アクティブ化ポリシー）を指定します。

reactivation-mode {depletion [deadtime minutes] | timed}

例 :

```
ciscoasa(config-aaa-server-group)# reactivation-mode deadtime 20
```

depletion キーワードを指定すると、グループ内のすべてのサーバーが非アクティブになった後に、障害の発生したサーバーが再度アクティブ化されます。

deadtime minutes キーワード引数のペアには、グループ内の最後のサーバーをディセーブルにしてから、次にすべてのサーバーを再度イネーブルにするまでの経過時間を分単位で 0 ~ 1440 から指定します。デフォルトは 10 分です。

timed キーワードは、30 秒間のダウンタイムの後に障害が発生したサーバーを再度アクティブ化します。

ステップ 4 LDAP サーバーと、そのサーバーが属する AAA サーバー グループを識別します。

aaa-server server_group [(interface_name)] host server_ip

例：

```
ciscoasa(config)# aaa-server servergroup1 outside host 10.10.1.1
```

(*interface_name*) を指定していない場合、ASA はデフォルトで内部インターフェイスを使用します。

aaa-server host コマンドを入力すると、aaa-server ホスト コンフィギュレーション モードが開始します。必要に応じて、ホスト コンフィギュレーション モード コマンドを使用して、さらに AAA サーバーを設定します。

LDAP サーバーで使用できるコマンドと、新しい LDAP サーバー定義にそのコマンドのデフォルト値があるかどうかを、次の表に示します。デフォルト値が指定されていない場合（「—」で表示）、コマンドを使用して値を指定します。

表 2: ホスト モード コマンドとデフォルト値

コマンド	デフォルト値	説明
ldap-attribute-map	—	—
ldap-base-dn	—	—
ldap-login-dn	—	—
ldap-login-password	—	—
ldap-naming-attribute	—	—

コマンド	デフォルト値	説明
ldap-over-ssl	636	<p>設定されていない場合は、ASA では LDAP 要求に sAMAccountName を使用します。SASL とプレーン テキストのどちらを使用する場合でも、ASA と LDAP サーバーの間での通信のセキュリティは SSL で確保されます。SASL を設定しない場合、SSL で LDAP 通信を保護することを強くお勧めします。</p> <p>reference-identity サブモードコマンドを使用して、ASA が LDAPS (SSL) サーバー ID を検証するために使用する参照 ID 名を設定できます。設定すると、ASA は crypto ca reference-identity <name> で設定された一致基準を使用して aaa-ldap サーバーを検証します。証明書のサブジェクト名または SAN に一致するものが見つからない場合、または reference-identity で指定されたホストが解決されない場合、接続は終了します。</p>
ldap-scope	—	—
sasl-mechanism	—	—
server-port	389	—
server-type	自動検出	自動検出により LDAP サーバのタイプが特定できなくても、そのサーバが、Microsoft Active Directory、Sun LDAP ディレクトリ サーバ、それ以外の LDAP サーバのいずれであるかがわかっている場合は、そのサーバタイプを手動で設定できます。

コマンド	デフォルト値	説明
<code>ssl-client-certificate</code>	—	ASA がクライアント証明書として LDAP サーバーに提示する証明書。この証明書は、クライアント証明書を LDAP サーバーで検証するように設定する場合に必要です。また、 ldap-over-ssl を有効にする必要があります。証明書を設定しないと、ASA は LDAP サーバーから要求されたときに証明書を提示しません。LDAP サーバーがピア証明書を要求するように設定されている場合、セキュア LDAP セッションが完了せず、認証/許可要求が失敗します。
<code>timeout</code>	10 秒	—

例

次の例では、`watchdogs` という名前の LDAP サーバー グループを設定し、そのグループに LDAP サーバーを追加する方法を示します。この例では、この例ではリトライインターバルや LDAP サーバーがリスンするポートを定義しないため、ASA はこの2つのサーバー固有パラメータにデフォルト値を使用します。

```
ciscoasa(config)# aaa-server watchdogs protocol ldap
ciscoasa(config-aaa-server-group)# aaa-server watchdogs host 192.168.3.4
ciscoasa(config-aaa-server-host)# exit
ciscoasa(config)#
```

VPN の LDAP 認証の設定

VPN アクセスのための LDAP ユーザー認証が成功すると、ASA は、LDAP 属性を返す LDAP サーバーのクエリーを実行します。通常これらの属性には、VPN セッションに適用される認可データが含まれます。このように LDAP を使用すると、1つのステップで認証および認可を完了できます。

ただし、場合によっては、認可メカニズムとは別の異なる認可を LDAP ディレクトリサーバーから取得する必要があります。たとえば、認証に SDI または証明書サーバーを使用している場合、認可情報は返されません。この場合、ユーザー認可では、認証の成功後に LDAP ディレクトリのクエリーを実行するため、認証と認可は2つのステップで行われます。

LDAP を使用した VPN ユーザー許可を設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 remotegrp という名前の IPsec リモート アクセス トンネル グループを作成します。

```
tunnel-group groupname
```

例 :

```
ciscoasa(config)# tunnel-group remotegrp
```

ステップ 2 サーバー グループとトンネル グループを関連付けます。

```
tunnel-group groupname general-attributes
```

例 :

```
ciscoasa(config)# tunnel-group remotegrp general-attributes
```

ステップ 3 以前作成した認証のための AAA サーバー グループに新しいトンネル グループを割り当てます。

```
authorization-server-group group-tag
```

例 :

```
ciscoasa(config-general)# authorization-server-group ldap_dir_1
```

例

特定の要件で使用できる許可関連のコマンドとオプションは他にもありますが、次の例では、LDAP でのユーザー許可をイネーブлにするコマンドを示します。この例では、remote-1 という名前の IPsec リモート アクセス トンネル グループを作成し、すでに作成してある許可用の ldap_dir_1 AAA サーバー グループにその新しいトンネル グループを割り当てています。

```
ciscoasa(config)# tunnel-group remote-1 type ipsec-ra  
ciscoasa(config)# tunnel-group remote-1 general-attributes  
ciscoasa(config-general)# authorization-server-group ldap_dir_1  
ciscoasa(config-general)#
```

この設定が完了したら、次のコマンドを入力して、ディレクトリパスワード、ディレクトリ検索の開始点、ディレクトリ検索の範囲など、追加の LDAP 許可パラメータを設定できます。

```
ciscoasa(config)# aaa-server ldap_dir_1 protocol ldap  
ciscoasa(config-aaa-server-group)# aaa-server ldap_dir_1 host 10.1.1.4  
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-login-dn obscurepassword  
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-base-dn starthere
```

```
ciscoasa(config-aaa-server-host)# ldap-scope subtree
ciscoasa(config-aaa-server-host)#
```

AAA の LDAP サーバーのモニタリング

AAA の LDAP サーバーのモニタリングについては、次のコマンドを参照してください。

- **show aaa-server**

このコマンドは、設定された AAA サーバーの統計情報を表示します。AAA サーバーの統計情報をクリアするには、**clear aaa-server statistics** コマンドを使用します。

- **show running-config aaa-server**

このコマンドは、AAA サーバーの実行コンフィギュレーションを表示します。AAA サーバー コンフィギュレーションをクリアするには、**clear configure aaa-server** コマンドを使用します。

AAA の LDAP サーバーの履歴

表 3: AAA サーバーの履歴

機能名	プラットフォームリリース	説明
AAA の LDAP サーバー	7.0(1)	LDAP サーバーの AAA のサポートと LDAP サーバーの設定方法について説明します。 次のコマンドを導入しました。 username 、 aaa authorization exec authentication-server 、 aaa authentication console LOCAL 、 aaa authorization exec LOCAL 、 service-type 、 ldap attribute-map 、 aaa-server protocol 、 aaa authentication telnet ssh serial console LOCAL 、 aaa authentication http console LOCAL 、 aaa authentication enable console LOCAL 、 max-failed-attempts 、 reactivation-mode 、 accounting-mode simultaneous 、 aaa-server host 、 authorization-server-group 、 tunnel-group 、 tunnel-group general-attributes 、 map-name 、 map-value 、 ldap-attribute-map 。
AAA 向けの IPv6 アドレス LDAP サーバー	9.7(1)	AAA サーバーに IPv4 または IPv6 アドレスを使用できるようになりました。

機能名	プラットフォームリリース	説明
グループごとの AAA サーバー グループとサーバーの制限が増えました。	9.13(1)	<p>より多くの AAA サーバー グループを設定できます。シングルコンテキストモードでは、200 個の AAA サーバー グループを設定できます（以前の制限は 100）。マルチコンテキストモードでは、8 個設定できます（以前の制限は 4）。</p> <p>さらに、マルチコンテキストモードでは、グループごとに 8 台のサーバーを設定できます（以前の制限はグループごとに 4 台のサーバー）。シングルコンテキストモードのグループごとの制限の 16 は変更されていません。</p> <p>これらの新しい制限を受け入れるために、次のコマンドが変更されました。aaa-server、aaa-server host</p>
相互 LDAPS 認証。	9.18(1)	<p>ASA が認証のために証明書を要求したときに LDAP サーバーに提示するように ASA のクライアント証明書を設定できます。この機能は、LDAP over SSL を使用する場合に適用されます。LDAP サーバーがピア証明書を要求するように設定されている場合、セキュア LDAP セッションが完了せず、認証/許可要求が失敗します。</p> <p>ssl-client-certificate コマンドが追加されました。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。